



認証番号 0010677

西日本オーガニック株式会社

2023年度 環境経営レポート

(対象期間:2023年5月1日 ~ 2024年4月30日)



西日本オーガニック
Wasi Japan Organic



作成日: 2024年5月1日

目 次

環境経営方針

【基本理念】	P1
【活動方針】	//

取組の対象組織・活動

I 組織の概要	P2
II 認証・登録の対象組織・活動	P3
III 許可・登録の内容	P4
IV 処理料金	//
V 廃棄物処理フロー	//
VI 環境負荷の実績(過去3年間の環境負荷状況)	//
VII 環境目標及びその実績		
(1) 中長期目標	P5
(2) 取組期間の実績	P6
VIII 環境経営計画とその評価(次年度の取組)	P7
IX 環境への取組の自己チェックについて	P8
X 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果	//
XI 代表者による全体の評価と見直し・指示	P9
XII 環境活動の紹介	P9・P10

環境経営方針

【基本理念】

当社は、限りある資源の有効利用をコンセプトに環境に配慮した資源循環型社会を積極的に推進し、下記に示す4項目を基本理念に事業活動を行うとともに、エコアクション21による環境活動により環境経営の継続的改善を図る。

《4原則》

- ①廃棄物受入自主規制(再生利用に不適當なものを施設に持ち込まない)
- ②ゼロエミッション(処理工程において二次廃棄物を出さない)
- ③環境保全(処理施設周辺の自然環境に影響を与えない)
- ④完結型リサイクル(再生品の全量消化)

【活動方針】

当社は、事業活動を遂行するにあたり、以下に示す事項に基づき環境活動を実施し、継続的な環境負荷の低減を実現する。

- 1 . 課題とチャンスをつまえて業務改善に取り組む
- 2 . 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守する。
- 3 . 二酸化炭素排出量の削減を推進する。(電気、ガソリン、軽油、灯油、ガス)
- 4 . 廃棄物排出量の削減及び再生利用または適正処理を推進する。
- 5 . 排水量の削減を推進する。
- 6 . グリーン購入を推進する。
- 7 . 受託廃棄物(有機系廃棄物)の再資源化(肥料化)を推進する。
- 8 . 会社周辺の環境活動を積極的に取り組む。

制定日： 2015年3月1日

改定日： 2020年5月1日

代表取締役 黒川 聖馬

取組の対象組織・活動

I 組織の概要

(1) 名称及び代表者名

西日本オーガニック株式会社
代表取締役 黒川 聖馬

(2) 所在地

本社・工場 岡山県加賀郡吉備中央町吉川2128番地62
実験農場 岡山県加賀郡吉備中央町北字東山2782-459

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 常務取締役 ★渡邊 樹 TEL:0866-56-8988

(4) 事業内容

- 産業廃棄物の収集運搬業
汚泥、動植物性残さ、ふん尿(動物)の3種類。
- 産業廃棄物中間処理業(堆肥製造)及び肥料販売
汚泥、動植物性残さ、ふん尿(動物)、廃油(動植物性油脂)の4種より有機肥料を製造し、販売を行う。
- 農業
野菜等の栽培、及び販売

(5) 事業の規模

法人設立 2002年5月15日
資本金 2,750 万円
売上高区分 A : 5億円未満

	本社・工場
従業員	10 名
延べ床面積	4,626 m ²

受託した産業廃棄物の処理量

収集運搬量	116 t		
中間処理量	10,630 t	うち再資源化	10,630 t

工場内作業車

車種	仕様	台数	備考
ホイローダー WA100-6	1.3m ³	1 台	
ホイローダー WA100-7	1.3m ³	1 台	
ホイローダー WA100-8	1.3m ³	3 台	
リフト FD20C-12	2t	1 台	
リフト FE25-1	2.5t	1 台	
リフト 02-8FD10	0.45t	1 台	

産業廃棄物収集運搬車両及びその他の車両

車種	仕様	台数	備考
キャブオーバー	3t	1 台	トラック積載型クレーン
ダンプカー	2t	1 台	
ダンプカー	4t	1 台	
アームロール	7.3t	1 台	
軽四トラック	350kg	1 台	

工場内主要設備

名称	仕様	台数	備考
原料供給設備(混合機)		1 基	3F
1次発酵槽供給機		1 基	2F
1次発酵槽設備		10 槽	2F
フルイ設備		1 基	1F
コンポ	C-65	2 基	3F
トラックスケール設備		1 基	1F(屋外)
土壌脱臭設備		1 基	3F(屋外)

(6) 事業年度

2023年5月1日 ~ 2024年4月30日 (令和 5年度)

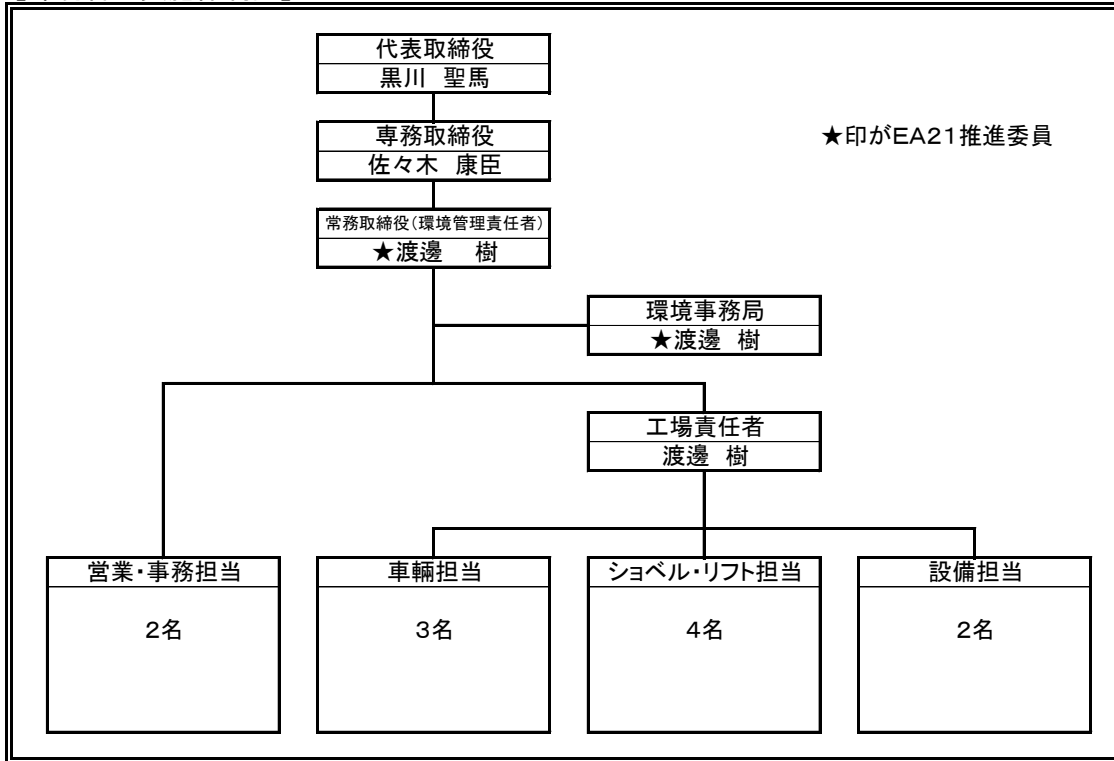
II 認証・登録の対象組織・活動

登録組織名：西日本オーガニック株式会社

対象事業所：本社・工場 及び 実験農場

活動：産業廃棄物の収集・運搬、産業廃棄物の中間処理(コンポスト化)及び
肥料の製造・販売
野菜等の栽培、及び販売

【環境管理実施体制図】



【役割・責任・権限】

代表者(社長)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任 ・経営における課題とチャンスの明確化 ・環境経営システムの実施に必要な人、もの、資金、情報を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境目標・環境活動計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し・指示を実施 ・環境活動レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境目標・環境活動計画書を承認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境活動レポートの確認
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境目標、環境活動計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境活動レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付) ・各部門における環境方針の周知 ・各部門に対する教育訓練の実施
EA21推進委員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境活動計画の審議 ・環境活動実績の確認・評価
各担当	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施 ・点検等記録簿の作成
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

Ⅲ 許可・登録の内容

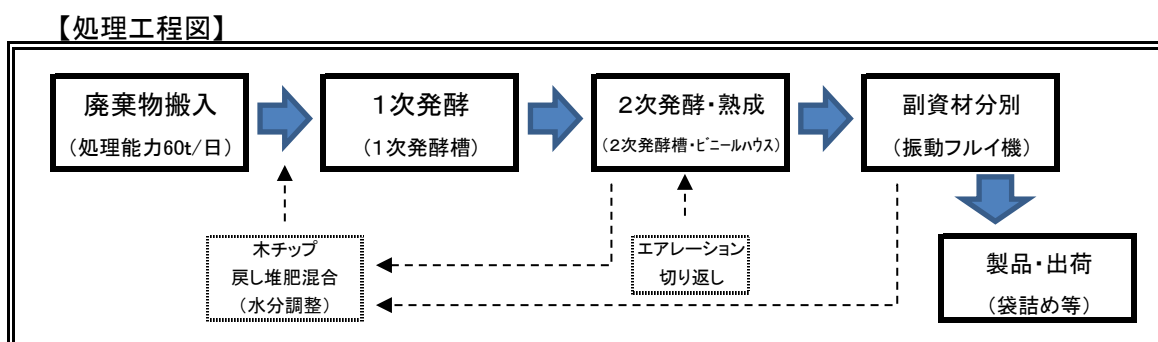
許可行政	事業の区分	許可区分	許可番号	許可年月日	有効年月日	産業廃棄物の種類			
						汚泥	(動植物性油脂)	動植物性残さ	(動物尿)
岡山県	中間処理	産廃	第03325107827号	平成30年12月13日	令和10年11月30日	●	●	●	●
	収集運搬	産廃	第03305107827号	平成31年3月4日	令和11年3月3日	●		●	●

注) 積み替え保管の有無 あり なし

Ⅳ 処理料金

処理料金につきましては、品目等により異なりますので、下記までお問い合わせください。
電話番号 (0866)56-8988

Ⅴ 廃棄物処理フロー



Ⅵ 環境負荷の実績(過去3年間の環境負荷状況)

項目	単位	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	(対前年度)
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	445,192	466,443	417,073	-11%
電力	kWh	422,208	453,900	390,050	(-14%)
灯油	L	220	228	220	(-4%)
液化石油ガス(LPG)	kg	5	1	1	(0%)
ガソリン	L	642	823	1,207	(47%)
軽油	L	60,971	60,726	58,007	(-4%)
受託廃棄物量	トン	10,942	10,966	10,630	-3%
廃棄物排出量					
産業廃棄物排出量	トン	1.9	47	37	-21%
一般廃棄物排出量	トン		3	7.2	118%
総排水量	m ³ (推定)	30	30	30	0%
化学物質	kg	該当なし			

Ⅶ 環境経営目標及びその実績

(1) 中長期目標

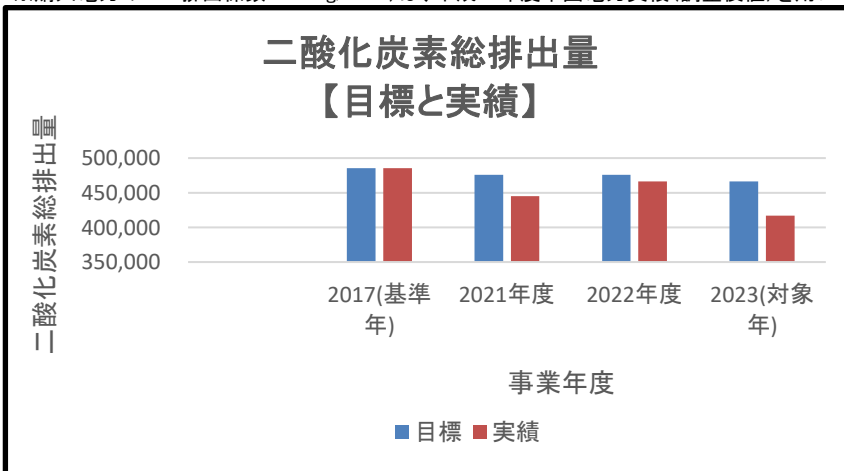
項目		年度	2017年度 (平成29年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2025年度 (令和7年度)
			(基準年)	(目標)	(目標)	(目標)
①省エネルギー (二酸化炭素排出量の削減)						
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂		485,643	466,217	461,361	461,361
	基準年度比			-4%	-5%	-5%
電力使用量の削減	kg-CO ₂		253,868	243,713	241,175	241,175
	kWh		374,989	359,989	356,240	356,240
	基準年度比			-4%	-5%	-5%
化石燃料の削減 (液化ガスLPG)	kg-CO ₂		75	72	71	71
	kg		25	24	24	24
	基準年度比			-4%	-5%	-5%
化石燃料の削減 (ガソリン)	kg-CO ₂		2,932	2,815	2,785	2,785
	L		1,264	1,213	1,201	1,201
	基準年度比			-4%	-5%	-5%
化石燃料の削減 (軽油)	kg-CO ₂		228,026	218,905	216,625	216,625
	L		88,382	84,847	83,963	83,963
	基準年度比			-4%	-5%	-5%
化石燃料の削減 (灯油)	kg-CO ₂		742	712	705	705
	L		298	286	283	283
	基準年度比			-4%	-5%	-5%
②水の効率的利用						
水の効率的利用 雨水	推定t		300	300	300	300
	基準年度比			0%	0%	0%
③廃棄物等の排出抑制・ リサイクル・適正処理						
受託廃棄物のリサイクル量の向上						
中間処理量	t		10,597	11,022	11,127	11,127
	うち再資源化量		10,597	11,022	11,127	11,127
	基準年度比			4%	5%	5%
産業廃棄物の削減						
産業廃棄物 廃棄物焼却量	t		1.1	0.8	0.8	0.8
	t		1.1	0.8	0.8	0.8
	基準年度比			-30%	-30%	-30%
④排水処理						
排水量の削減	推定t		30	30	30	30
	基準年度比			0%	0%	0%
⑤グリーン購入						
環境に配慮した物品等 の購入	%		59%	50%	50%	50%
	基準年度比					
⑥廃棄物の収集運搬・ 処理における環境配慮						
収集運搬に伴う 環境負荷の低減	行動目標	急発進・急加速や空ぶかしの排除、駐停車中のエンジン停止				
廃棄物処理における 環境配慮	行動目標	悪臭防止のため臭気測定を実施(年1回:選定10物質)				
⑦環境活動への積極的な取組						
工場周辺の環境活動 への取組	行動目標	工場内の側溝等の清掃や周辺の草刈り等を行うことで周辺環境に配慮				

注: 化学物質使用量の削減の項目は、対象となる化学物質を使用していないため環境経営目標とはしない。

(2) 取組期間の実績

項目	年度	取組期間における実績・達成度 2023年5月1日 ~ 2024年4月30日				
		2017年 (基準年)	(目標)	(実績)	達成度	評価
①省エネルギー (二酸化炭素排出量の削減)						
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	485,643	466,217	417,074	達成	○
	基準年度比		-4%	-14%		
電力使用量の削減	kg-CO ₂	253,868	243,713	264,064	未達成	×
	kWh	374,989	359,989	390,050		
化石燃料の削減 (液化ガスLPG)	kg-CO ₂	75	72	4	達成	○
	kg	25	24	1		
化石燃料の削減 (ガソリン)	kg-CO ₂	2,932	2,815	2,800	達成	○
	L	1,264	1,213	1,207		
化石燃料の削減 (軽油)	kg-CO ₂	228,026	218,905	149,658	達成	○
	L	88,382	84,847	58,007		
化石燃料の削減 (灯油)	kg-CO ₂	742	712	548	達成	○
	L	298	286	220		
②水の効率的利用						
水の効率的利用 雨水	推定t	300	300	300	達成	○
	基準年度比		0%	0%		
③廃棄物等の排出抑制・ リサイクル・適正処理						
受託廃棄物のリサイクル量の向上						
中間処理量	t	10,597	11,022	10,630	未達成	×
	うち再資源化量	t	10,597	11,022		
産業廃棄物の削減 産業廃棄物 廃棄物焼却量	t	1.1	0.8	37.0	未達成	×
	基準年度比		-30%	3264%		
④排水処理						
排水量の削減	推定t	30	30	30	達成	○
	基準年度比		0%	0%		
⑤グリーン購入						
環境に配慮した物品等 の購入	%	59%	50%	20%	未達成	×
	基準年度比					
⑥廃棄物の収集運搬・ 処理における環境配慮						
収集運搬に伴う 環境負荷の低減	行動目標	急発進・急加速や空ぶかしの排除、駐停車中のエンジン停止			達成	○
廃棄物処理における 環境配慮	行動目標	悪臭防止のため臭気測定を実施(年1回)			達成	○
⑦環境活動への積極的な取組						
工場周辺の環境活動 への取組	行動目標	工場内の側溝等の清掃や周辺の草刈り等を行うこと で周辺環境に配慮			達成	○

※購入電力のCO₂排出係数0.677Kg/kWhは、平成29年度中国電力実績(調整後値)を用いています。



年度	目標	実績
2017(基準年)	485,643	485,643
2021年度	475,930	445,192
2022年度	475,930	466,443
2023(対象年)	466,217	417,073

Ⅷ 環境経営計画とその評価(次年度の取り組み)

活動:◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取組計画	達成状況	評価(結果と次年度の取組)
①省エネルギー(二酸化炭素排出量の削減)		
電力使用量の削減		累計では目標未達成だったが、冬季のエアコンの稼働を制限することで1~4月で月間目標を達成できた
・事務室、工場等の照明は、昼休み残業時等不必要なものは消灯	○	休憩時などの消し忘れないよう徹底
・肥料製造設備の動力機器等について効率的な電力利用	○	下半期から削減し目標を下回る。次年度も継続。
化石燃料の削減(液化ガスLPG)		目標達成。
・保温機能の付いたポットを活用	○	節約意識の徹底。次年度も継続。
化石燃料の削減(ガソリン)		目標達成。
・アイドリングストップ(自動車)	○	エコドライブ意識の向上
・適切な車輛の点検整備	○	定期的な点検を実施。次年度も継続。
化石燃料の削減(軽油)		目標達成。
・アイドリングストップ(自動車・重機)	○	エコドライブ意識の向上
・適切な車輛の点検整備	○	定期的な点検を実施。次年度も継続。
化石燃料の削減(灯油)		目標達成。
・暖房設備の適切な使用(室内暖房器・ジェットヒーター)	○	適切な使用の徹底。次年度も継続。
②水の効率的利用		
水の効率的利用		目標達成。
・節水意識の向上	○	次年度も継続。
③廃棄物等の排出抑制・リサイクル・適正処理		
受託廃棄物のリサイクル量の向上		冬季に入り予定受け入れ量を大幅に下回ったため。
・廃棄物の再資源化の推進 (受入量の増加=再資源化の推進=社会的な環境負荷の低減)	△	令和6年度新規顧客と契約済み。次年度も継続。
産業廃棄物の削減		フレコン詰め原料の増加と散布作業の取りやめにより廃棄量が増加したため。
・フレコン等の再利用を推進	△	対象年度の見直しを検討する。
④排水処理		
排水量の削減		目標達成。
・排水量の削減 (収集運搬車荷台の洗浄に伴う汚水をコンポスト処理)	◎	環境意識の徹底。次年度も継続。
⑤グリーン購入		
環境に配慮した物品等の購入		積極的にグリーン購入適合商品を購入しているが、今回はその他の購入が多かった。
・環境に配慮した物品等を積極的に購入	△	今年度で廃止。
⑥廃棄物の収集運搬・処理における環境配慮		
収集運搬に伴う環境負荷の低減		長時間の駐車時にはエンジンを停止するなど環境に配慮。
・急発進・急加速や空ぶかしの排除、駐車中のエンジン停止	◎	エコドライブ意識の向上。次年度も継続。
廃棄物処理における環境配慮		敷地境界上での測定では定量限界値未満であるため工場内部で測定。(悪条件で測定)
・悪臭防止のため臭気測定を実施(年1回:選定10物質)	◎	臭気測定を実施し悪臭を防止。次年度も継続。
⑦環境活動への積極的な取組		
工場周辺の環境活動への取組		目標達成。
・工場内の側溝等の清掃や周辺の草刈り等を行うことで周辺環境に配慮	◎	臭気測定を実施し悪臭を防止。次年度も継続。

IX 環境への取組の自己チェックについて

本年度における環境への取組を把握するため、「環境への取組の自己チェック」を実施し、環境保全の施策毎に負荷の重要度に応じて、重大「3点」・かなり「2点」・多少「1点」、取組状況に応じて、既に取組んでいる「2点」・さらに取組が必要「1点」、取組んでいない「0点」として、施策毎に集計・分析を行い継続的に改善を行う。

施 策	評価点	満点の場合の点数	達成度	
1. 事業活動へのインプットに関する項目				
(1)省エネルギー	41	52	79%	
(2)省資源	6	8	75%	
(3)水の効率的利用及び日常的な節水	4	4	100%	
小 計	51	64	80%	
2. 事業活動からのアウトプットに関する項目				
(1)温室効果ガスの排出抑制、大気汚染等の防止	9	12	75%	
(2)廃棄物等の排出抑制、リサイクル、適正処理	16	18	89%	
(3)排水処理	6	6	100%	
小 計	31	36	86%	
3. 製品及びサービスに関する項目				
(1)グリーン購入(環境に配慮した物品等の購入、使用等)	0	6	0%	
(2)受託した産業廃棄物の収集運搬・処理における環境配慮	32	32	100%	
小 計	32	38	84%	
合 計	114	138	83%	
※弊社作成のチェック表による結果	前年度	116	136	85%
	前々年度	119	136	88%

X 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

本年度における環境関連法規等への違反はありません。
なお、環境法規等への違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

法的義務を受ける主な環境関連法規等は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動等)	遵守状況
廃棄物処理法	収集運搬業(汚泥・動植物性残さ)、中間処理(堆肥製造) 産業廃棄物(汚泥・廃油[動植物性油脂]・動植物性残さ・動物のふん尿)	遵守
肥料取締法	肥料の登録・届出、肥料成分の保証・品質の表示 生産量報告、販売業務届出	遵守
悪臭防止法	臭気測定を実施(選定10物質) ※規制区域外であるが自主測定:環境保全協定書(吉川西刈尾区)	遵守
消防法	防火対象物に設けられている消防設備等の届出 消防設備等の点検	遵守
計量法	法定定期検査(2年に1回)	遵守
フロン排出抑制法	第一種特定機器の簡易点検(3ヶ月に1回)の記録	遵守

XI 代表者による全体の評価と見直し・指示

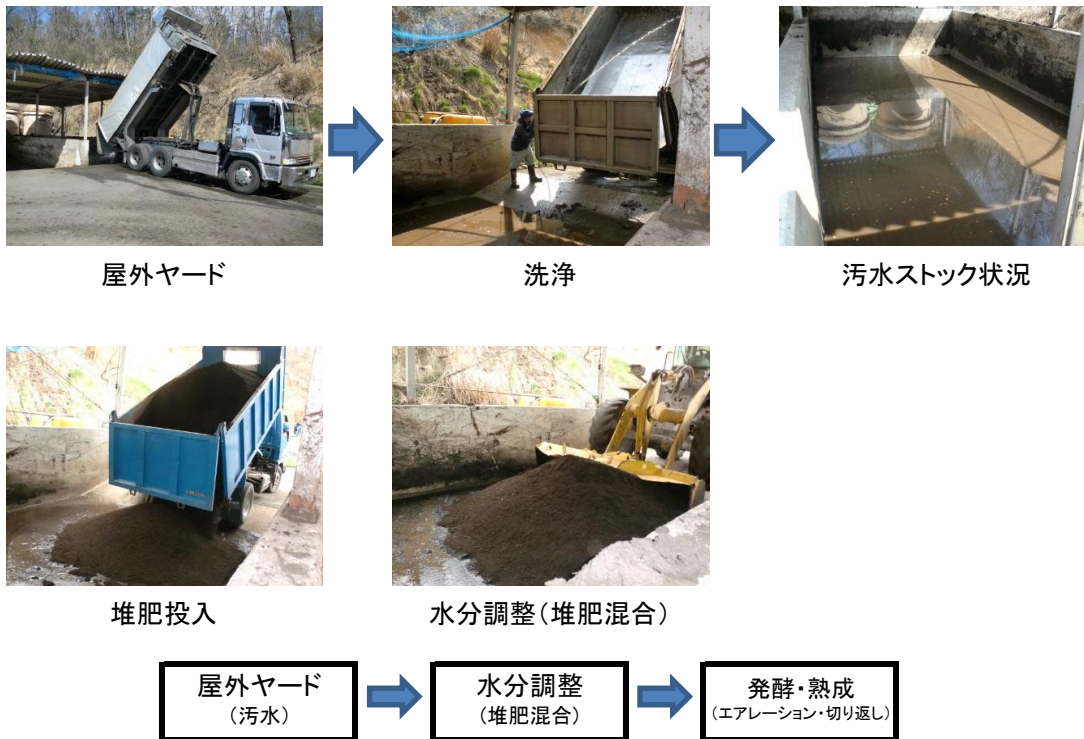
最重要課題であるCO2排出量の削減目標を達成できたことは社員全員の努力の結果といえる。軽油を始めとする化石燃料を大幅に削減できたことは評価できる。一方で廃棄物受け入れ量は目標を下回ったにもかかわらず、電力消費量は目標を超過している。工場への負荷が下がれば電力消費量は下がるはずであるが、逆に上がっている。この矛盾の原因を究明して改善することが今後の課題である。

	変更の必要性
【環境経営方針】	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
【環境経営目標・計画】	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
【実施体制】	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし

代表取締役 黒川 聖馬

XII 環境活動の紹介

◎収集運搬車の荷台洗浄時に出る汚水をコンポスト処理。



◎消火設備等の自主点検・緊急時の対応訓練

【消火ポンプの取り扱い指導と放水訓練】



◎臭気測定(自主測定)

地域の生活環境の保全と地域住民との信頼関係を築くため、吉川西刈尾地区と環境保全協定を結び、自主的に臭気測定を実施。(年1回・選定10物質)

敷地境界上での測定では定量限界値未満であるため工場内部で測定。(悪条件で測定)

【臭気捕集作業:環境保全事業団】



※令和3年度からスローブ中段に測定地点を変更している。

【測定結果】

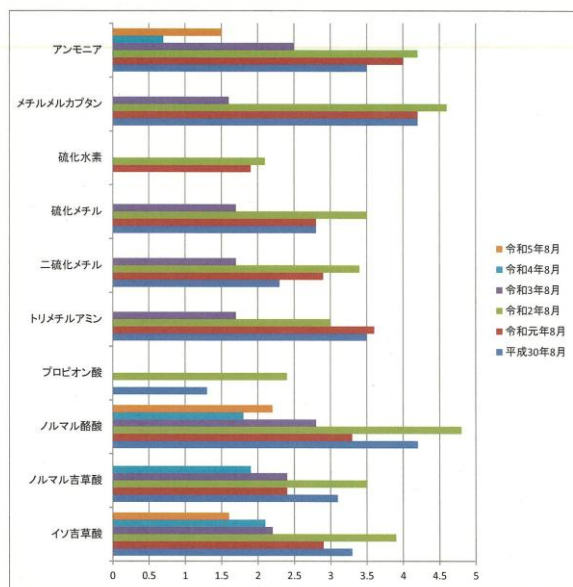
表-1 悪臭物質の濃度:西日本オーガニック株式会社

採取日	令和5年8月17日	令和4年8月18日	令和3年8月19日	令和2年8月19日	令和元年8月21日	平成30年8月23日
悪臭物質の名称	測定結果 (ppm)					
アンモニア	0.3	0.1	1.2	13	9.2	5.0
メチルメルカプタン	0.0002未満	0.0002未満	0.0003	0.079	0.038	0.036
硫化水素	0.002未満	0.002未満	0.002未満	0.007	0.004	0.002未満
硫化メチル	0.001未満	0.001未満	0.001	0.19	0.027	0.026
二硫化メチル	0.0009未満	0.0009未満	0.0013	0.079	0.021	0.0061
トリメチルアミン	0.0005未満	0.0005未満	0.0006	0.021	0.086	0.072
プロピオン酸	0.003未満	0.003未満	0.003未満	0.026	0.003未満	0.004
ノルマル酪酸	0.0006	0.0003	0.0018	0.060	0.0042	0.021
ノルマル吉草酸	0.00009未満	0.00040	0.00079	0.0042	0.00081	0.0021
イソ吉草酸	0.0002	0.0005	0.0007	0.024	0.0033	0.0069

表-2 悪臭物質の臭気強度:西日本オーガニック株式会社

採取日	令和5年8月17日	令和4年8月18日	令和3年8月19日	令和2年8月19日	令和元年8月21日	平成30年8月23日
悪臭物質の名称	臭気強度					
アンモニア	1.5	0.7	2.5	4.2	4.0	3.5
メチルメルカプタン	-	-	1.6	4.6	4.2	4.2
硫化水素	-	-	-	2.1	1.9	-
硫化メチル	-	-	1.7	3.5	2.8	2.8
二硫化メチル	-	-	1.7	3.4	2.9	2.3
トリメチルアミン	-	-	1.7	3.0	3.6	3.5
プロピオン酸	-	-	-	2.4	-	1.3
ノルマル酪酸	2.2	1.8	2.8	4.8	3.3	4.2
ノルマル吉草酸	-	1.9	2.4	3.5	2.4	3.1
イソ吉草酸	1.6	2.1	2.2	3.9	2.9	3.3

注1) 測定結果が定量下限値未満のものについては、臭気強度を算定していません。
注2) 臭気強度算定については資料-2参照。



注1) 測定結果が定量下限値未満のものについては、臭気強度を算定していません。

図-1 各物質の臭気強度

計量証明書

受付番号: TK-23080004-1
発行番号: TK2300073-1-A-1/1
2023年8月25日 発行

西日本オーガニック株式会社

試料の区分: 環境大気
試料の名称: 発生源臭気
試料採取日: 2023/08/17
試料採取者: 公益財団法人岡山県環境保全事業団職員
試料採取場所: 西日本オーガニック株式会社 敷地内
依頼年月日: 2023/08/17

事業者: 公益財団法人岡山県環境保全事業団
事業所: 公益財団法人岡山県環境保全事業団環境調査分
〒701-0212 岡山県岡山市南区内4645-1
TEL: 086-258-2616 FAX: 086-258-2617
登録番号: 岡山県知事登録 第8-1号、第7-1号及び第3号

計量管理者: 環境計量士 田武 裕香

上記試料について計量の結果を下記の通り証明します。

計量の項目	計量の単位	計量の結果	計量の方法
アンモニア	ppm	0.3	昭和47年環境庁告示第3号 別表1
メチルメルカプタン	ppm	0.0002 未満	昭和47年環境庁告示第3号 別表2第1
硫化水素	ppm	0.002 未満	昭和47年環境庁告示第3号 別表2第1
硫化メチル	ppm	0.001 未満	昭和47年環境庁告示第3号 別表2第1
二硫化メチル	ppm	0.0009 未満	昭和47年環境庁告示第3号 別表2第1
トリメチルアミン	ppm	0.0005 未満	昭和47年環境庁告示第3号 別表3
プロピオン酸	ppm	0.003 未満	昭和47年環境庁告示第3号 別表3
ノルマル酪酸	ppm	0.0006	昭和47年環境庁告示第3号 別表3
ノルマル吉草酸	ppm	0.00009 未満	昭和47年環境庁告示第3号 別表3
イソ吉草酸	ppm	0.0002	昭和47年環境庁告示第3号 別表3
以下 余白			

開始時刻: 10時15分 終了時刻: 10時43分
気 温: 24.8℃ 湿 度: 92%

備考

注記 ① 当該の計量は、本証明書記載事項の一環の計量(検査)であることを示します。
② 計量の結果が「-」未満」とあるのは、定量下限値未満であることを示します。